令和４年度

事　業　報　告　書

社会福祉法人　宇多津町社会福祉協議会

令和４年度　宇多津町社会福祉協議会事業報告

１．概　況

少子高齢化が急速に進む中、わが国ではいわゆる「団塊の世代」が７５歳以上となる２０２５年を目前に控えることから、介護を必要とする高齢者も安心して暮らせるよう、医療・介護・住まい・生活支援サービスの確保とその体制づくりが早急に求められているところです。

一方、４年目を迎えた新型コロナウイルス感染症は、令和５年５月８日から感染症法上の分類が２類から５類に変更されたように私たちの生活環境もようやく落ち着きを取り戻しつつあります。海外からの観光客も大幅に増えており、近々の報道を見るとコロナ前の賑わいが戻ってきた感じがありますが、今後の生活においても、アフターコロナ、ウィズコロナの視点のもと感染防止に慎重に努めていく必要があります。

このような状況下、宇多津町社会福祉協議会は地域福祉の増進と介護保険事業の担い手として地域における重要な責務を果たすべく職員や関係者が一体となって取り組みを進めています。

地域福祉の推進においては、地域共生社会の実現を目指し、地域で支え合う体制づくりを推進する「協議体」が関係者による協議を重ねながら相談活動の拡大充実を推進してきました。令和４年度の取組みとしては、前年から始めた「よろず相談」をうたづっこふくしセミナー、秋の大収穫祭、うたづの町家とおひなさんにおいて実施しました。また、地域のニーズ把握のため各地のまんでがん体操会場も訪問し、意見や要望の聞き取りに努めました。今後は、ニーズの把握を継続するとともにボランティア人材の確保に傾注してまいりたいと考えています。

社協資産については、令和２年頃から新型コロナウイルスの広がりとともに事業の延期・縮小や職員の減少により約１千７百万円余の増加となる一方で、事業活動支出はこの動きに比例して約１千４百万円余の減少となり１千８９４万円の福祉充実残額が生じました。今後も利用者等の増加を図ることはもとより、不足する人員の確保に加え老朽化している社用車の更新など資産の有効活用を図り、中期的視野による運営基盤の整備を図る必要があると考えています。

また、社協事務局における職員体制は、ここ数年職員の入退職が発生していますが、必要に応じ補充のための採用に努めています。今後も事業展開に見合った人材確保に努めるとともに、職場環境等の改善を図り良好な勤務体制のもと、さらなる宇多津町の地域福祉の推進・拡充に寄与していきたいと考えています。

令和４年度事業等の細部は、次の９項目を重点に実施しました。

（１）地域福祉活動の推進
（２）介護保険事業の充実
（３）障害者自立支援事業の充実
（４）生活困窮者自立相談支援事業の推進
（５）ボランティア活動の推進
（６）福祉関係団体等活動協力と連携
（７）法人運営の強化
（８）権利擁護の推進
（９）その他福祉活動への協力

２．事業経過報告

（１） 地域福祉活動の推進

① ふれあいいきいきサロンの推進

高齢者や障害者等、地域の中で孤立して閉じこもりぎみに暮らしている人たちが、いきいきと元気に暮らせることを目的としてサロン活動を行っている。

ここ３年間のコロナ禍による影響が大きく「会食ができない。」「集まれない。」などで従来の活動ができなくなり活動自体が衰退し、メンバーの高齢化も相まってサロン数が減ってきている。しかし、新型コロナの５類移行や施設利用の緩和などにより、今後は休止している活動の再開や新規のサロン活動の展開が期待できる。年度ごとの箇所数は次のとおり。

年　　度	箇所数
令和　２　年度	３２
令和　３　年度	２９
令和　４　年度	２６

② 共生型サロンの推進

毎月第1・第3水曜日を定例として、高齢者や子育て中の親子、障害者の方など誰もが自由に集い交流できるみんなのサロン「とも・とも」の活動を行ってきた。

令和4年度は、コロナによる施設利用の制限が徐々に緩和され、高齢者中心の活動から子育て世代からの参加も呼びかけ、7月にさぬきこどもの国による「funfunミュージック」、12月のクリスマス会、1月のもちつき大会、2月の節分豆まきなど以前のように世代間交流の行事を実施した。

今後も、子育て中の親子も気軽に参加して交流できる場を企画し、「とも・とも」を楽しみに集ってくださる方々の思いを大事にしながら、今後も地道に活動を続けていきたい。

＜みんなのサロン「ともとも」参加人数＞　（単位:人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
親	0	0	0	5	5	0	0	0	2	3	0	0
子ども	0	0	0	5	4	0	0	0	2	3	0	0
高齢者	20	10	21	19	21	22	21	19	14	30	18	15
Vo・ｽﾀｯﾌ	3	3	2	2	5	2	2	3	3	3	3	2
合計	23	13	23	31	35	24	23	22	21	39	21	17

③　地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業

香川おもいやりネットワーク事業を生かし、社会福祉法人、社会福祉協議会、民生委員・児童委員との連携により、何でも相談できる窓口（福祉まるごと相談窓口）を町内に5か所（社協・陽だまり・寿楽荘・いきいき荘・マイルドハート21）設置するとともに、「巡回型福祉まるごと相談」として、民生委員、施設法人及び社協がチームを組み町内のコンビニや企業を訪問し、相談窓口の周知を目的としたチラシ設置の依頼、困りごとをキャッチする取り組み、フードバンクの協力依頼を行った。

④　各種相談事業の実施

民生児童委員会、弁護士及び身体障害者相談員の協力を得ながら次の６種類の相談事業を実施した。

相談の種類	相談員	相談日	相談実績
一般相談	民生委員・児童委員	毎週火曜日	１件
弁護士相談	弁護士　安西　敦	２カ月に１回	３０件
身体障害者相談	県身体障害者相談員	第３金曜日	０件
介護相談	介護支援専門員、訪問介護員	月曜日～金曜日	４８件
ボランティア相談	ボランティアコーディネーター	月曜日～金曜日	７件
電話・来所相談	社協事務局	月曜日～金曜日	２５２件

コロナの影響による収入減少の電話相談は、特例貸付事業の終了などにより減少傾向となり、電話件数自体は半減した。弁護士相談は、１回６人の相談枠であるが概ね 83%の相談実績であり、件数は前年並みである。

⑤　生活福祉資金の効果的運用

令和２年３月末よりコロナ禍が影響し、収入が減少した世帯への貸付制度として「特例総合支援資金」、「特例緊急小口資金」の制度が追加となった。申請は令和４年９月３０日で終了したが、借入者の償還は令和５年１月より１０年をかけて始まっている。同期間は、引き落としのできない未応答者へ社協職員が電話や訪問調査を行うものである。

＜生活福祉資金貸付事業＞

借入資金の種類	４年度中 新規借入件数	３年度中 新規借入件数
総合支援資金	0	0
総合支援資金（コロナ特例）	8	８９
緊急小口資金	0	1
緊急小口資金（コロナ特例）	１８	７０
臨時特例つなぎ資金	4	0
教育支援資金	1	0
福祉資金	0	1
不動産担保型生活資金	0	0
計	３１	１６１

⑥　日常生活自立支援事業の実施

県社協の委託事業として、高齢者や知的・精神障害者で判断能力に不安がある人を対象に金銭管理・福祉サービスの手伝いを行う日常生活自立支援事業を実施した。年度ごとの利用者状況は次のとおりである。

（単位:人）

年度	高齢者	知的障害	精神障害	その他	計
令和２年度	１６	7	１１	4	３８
令和３年度	２０	7	9	3	３９
令和４年度	１６	8	１０	5	３９

日常生活自立支援事業を利用開始時は判断能力があったが、年数の経過とともに判断能力の低下が見られる方に対しては、成年後見制度への移行など、親族と調整しながら対応していく必要がある。

⑦　高齢者福祉サービス事業の充実

在宅の高齢者及び障害者の日常生活や自立に向けた取り組みを支援するために次の事業を実施した。老人配食サービスについては、配食していただくボランティアの募集など、当日の配食に支障のないように努めた。

＜老人配食サービス＞

区　分	老人配食サービス事業	車椅子貸出事業	「陽だまり」お風呂
令和２年度	6,087 食（136 名）	１９件	９名
令和３年度	6,250 食（141 名）	３１件	６名
令和４年度	6,672 食（200 名）	３１件	５名
備　考	毎週水曜日（月４回）		＃1:月・水・金 ＃2:火・木・土

また、共同募金の助成金による高齢者見守り活動として、民生委員の協力

を得て、年末に 80 歳以上の一人暮らし高齢者に対し３千円を配布した。

＜高齢者見舞金事業対象者＞

区　　分	一人暮らし高齢者（80 歳以上）
令和２年度	２１４名
令和３年度	２０７名
令和４年度	２０３名

⑧　ファミリー・サポート・センター事業

＜令和４年度登録会員数、活動件数、援助活動内容と件数の内訳＞

登録会員数 （R4.4～R5.3 末）	おねがい会員	２８２名	合計 ４３０名
	まかせて会員	１０１名	
	どっちも会員	４７名	
活動実績 （R4.4～R5.3 末）	援助活動件数の内訳		活動件数
	①保育施設等への前後の預かり		５
	②保育施設等への送迎		２９
	③児童クラブへの前後の預かり		１
	④児童クラブへの送迎		３２
	⑤子どもの習い事等への送迎		１３６
	⑥自宅・祖父母宅への送迎		１０７
	⑦保護者等の仕事の際の援助		５９
	⑧他の子供の行事の場合の援助		５９
	⑨保護者等の外出の場合の援助		１９
	⑩保護者のリフレッシュのための援助		１３
	⑪保護者等の病気・通院のための援助		７
	合　　計		４６７

令和４年度も新型コロナウイルスの影響を受けているものの、ワクチン接種の充足や社会活動の一定の緩和もあって活動依頼は前年度から微増している。新規の依頼や毎月固定した継続依頼は、変わらない状況にある。

前年に比べ保育施設等への送迎や前後の預かりは大きく減ったが、習い事や祖父母宅への送迎は倍増しており、合計では１１７件の増となった。

子どもを預かることのできる方（まかせて会員・どっちも会員）の新しい成り手の拡充を図るとともに、現会員の研修時間が厚生労働省の推奨する研修時間数を充足するよう会員に講座の受講を促し、預かり時の事故防止等について引き続き講習会を実施していくこととする。

＜令和４年度研修会、交流会回数と内容＞

	回　数	参加人数	内　　容
研修会	６	３９人	養成講座
交流会	３	３５人	ファミサポ会員交流会
講演会	０	０人	実績なし

⑨　地域支え合い推進（生活支援体制整備事業）

現在４期目の協議体（地域支え合い「陽だまりうたづ」）はコロナ禍ではあったが、罹患に注意して活動を行った。

去年から引き続いて出張相談会を協議体構成員で行い、宇多津町住民のお困りごとやニーズを把握した。地域に不足する資源の聞き取りも行ったところ「地域助け合い」が不足している回答が多く寄せられた。今後も、協議体は今後も住民同士のつながりが大切であることを共有し、地域の実情に応じた支えあいや助け合いが充実するよう、取り組みを進めていくこととする。

⑩　子どもの未来応援事業の推進

子ども食堂運営事業「陽だまり食堂」は、コロナ禍による毎月開催の代わりに学校休業中に弁当配布を行った。夏休み企画と冬休みには、小中学校のスクールソーシャルワーカーと連携しながら、新たな困窮世帯の子どもにも参加を促進することができた。また、前年度に参加していた世帯も参加してもらい、支援が必要な世帯に対して弁当配布を行うことができた。

今後もコロナ禍でも行える行事を探し、ボランティアとともに「地域で子どもに関心を持つ人や、見守る人の目を増やすこと、家庭・学校以外の子どもの居場所をつくり、子どもを一人にさせないこと、子どもが様々な大人と関わる機会・体験を増やすこと」を目指していく。

令和４年度は宇多津ライオンズクラブ主催でバーベキュー行事も行っており、今後も継続予定である。町内の豆腐業者からはおやつを購入し、地域業者としても食堂継続に関わっていただいている。参加費はおとな 300 円、子ども 100 円で、参加者数の実績については次のとおりである。

次年度も、参加者や保護者にアンケート調査によるニーズを把握するとともに、ボランティアや関係機関との話し合いを持ち、今後の陽だまり食堂の運営について協議し、さらなる充実を図っていきたい。

＜令和4年度子ども食堂運営事業　参加者数実績＞　（単位:人）

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
子ども	0	0	0	0	38	0	0	0	32	44	30	0
おとな	0	0	0	0	14	0	0	0	0	13	12	0
ボランティア	0	0	0	0	9	0	0	0	0	6	2	0

⑪　うたづっこ育児用品レンタル・サポート事業の推進

宇多津町の未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援し、保護者の経済的負担を軽減することを目的に、チャイルドシート、ジュニアシート、ベビーカーのレンタル事業を行っている。

＜令和４年度育児用品保有数と利用数＞　（単位:台､数）

	購入台数	寄付台数	合計保有数	返却数	貸出件数	年度末在庫
チャイルドシート	0	3	92	35	40	3
ジュニアシート	0	4	16	7	15	0
ベビーカー	0	7	56	25	26	7

レンタル事業品のメンテナンスや延滞に対する対処の課題があるが、育児用品の寄付については、広報誌に掲載すると反響があり、必要とする方にお譲りできている。この事業が円滑に進むよう家庭で不要になった育児用品の寄付受けについて、引き続き広報誌等で協力を依頼していきたい。

（２）　介護保険事業の充実

①　訪問介護事業（ホームヘルパー）の充実

令和２年度までは、利用者の逝去や入院及び施設入所、介護保険改正による収入減少などにより利用減少の傾向が継続していたが、令和３年度より少しずつ新規利用者が増えた事により収入が増加となっている。令和４年度も令和３年度とほぼ同様の利用者数だったためにほんの少しの増加にとどまっている。

総合支援事業を利用する希望者は増加傾向にあり、事業拡大を図るうえでは要員確保のためのヘルパーの増員が必要である。登録ヘルパーの募集を行うとともに現在職員の人材養成の継続が必須であると考えている。

＜訪問介護事業の事業収入及び利用者＞　（単位:千円､人数）

年　度	訪問介護事業収入	前年比	延べ人数	軽度生活支援事業収入
令和２年度	5,716	▲24.4%	274	361
令和３年度	6,364	11.3%	315	328
令和４年度	6,383	0.3%	322	328

②　居宅介護支援事業の充実

令和４年度の延べ人数は前年 272 名から 20 名への減少で、事業収入は前年約 3,199 千円から 1,244 千円への 60.1%減となった。

令和４年度は令和３年度の２名の専門職員の退職に伴う新規採用ができなかったため、資格を有する職員が兼務で２名をマネジメントしていたが、当該職員も９月末で退職したため、ケアマネジャーが不在となってその後の利用者は０名となっている。

人員の確保が喫緊の課題であり、二度にわたり正規の専門職員の募集並びに臨時職員の募集を通年行ったものの、応募は得られていない。居宅介護支援事業所として、利用者が地域において可能な限り自立した日常生活を営む

ことができるためにも１日も早い再開を目指し、継続して職員採用を行うとともに待遇などについても検討していく必要があると考えている。

＜居宅介護支援事業の事業収入及び利用者＞　（単位:千円･人数）

年　度	事業収入	前年比	対象者数(延人)
令和２年度	7,017	▲4.7%	741
令和３年度	3,119	▲55.6%	272
令和４年度	1,244	▲60.1%	12

③　通所型サービスＡ事業所の充実

利用者は２名（火曜日１名・木曜日１名）であり、家庭的な雰囲気で行なうデイサービスを楽しみに利用いただいている。事業収入については、令和３年度 469,680 円から令和４年度 436,850 円と若干の減少となった。

施設の構造上利用者の大幅な増加は見込めないが、地域包括支援センターとの連携のもと、本施設の利点を生かした丁寧なサービスの提供など、利用者増に資する検討を重ね、本サービスの充実発展を期していく。

（３）　障害者自立支援事業の充実

①　障害者福祉サービスの充実

居宅介護については、利用者が増えたことにより少しではあるが増加している。移動支援についても同様である。また同行援護については、前年度同様、利用者の利用頻度が増えたために僅かな増加となった。利用者の増加のためには各相談支援事業所への働きかけが今後も必要である一方、事業拡大のためには登録ヘルパーの人材確保が必須である。各年度のサービスごとの収入の結果は、次のとおりである。

（単位：千円）

区　分	居宅介護	移動支援	同行援護	難病患者等	計
令和２年度	1,468	273	10	0	1,751
令和３年度	1,137	212	55	0	1,404
令和４年度	1,175	413	62	0	1,650

（４）　生活困窮者自立相談支援事業の推進

①　包括的かつ継続的な相談支援

生活困窮に関する課題は、経済的な問題のみならず社会的な孤立や医療問題、ＤＶ、障害等が折り重なって、複合的な問題を抱えており、本人だけでなく世帯全体が困窮しているため、世帯全体の支援に志向し、継続して取り組んでいる。また、コロナ禍でもあり、困窮相談件数が多くなっている。

＜相談実績＞　　（単位：件）

区分	年間合計	男性	女性	～10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	不明
相談件数	12	4	8	1	4	1	2	3	0	1	0

② 生活困窮者支援を通じた地域づくり

生活困窮については、福祉教育や個別支援を通じて理解者を地域に増やしていくことで、支え合いの輪を拡げ、誰もが住み易く、排除しない地域を創造していくことが重要である。支える側と支えられる側が互いに支え合える地域づくりを目指している。

③ 香川おもいやりネットワーク事業の推進

宇多津町社会福祉協議会が社会福祉法人施設や民生委員・児童委員と繋がり、支援を必要とする方を「地域でトータルにサポートする仕組み」をつくることで、「香川型福祉でまちづくり」を目指している。

会議の開催状況は次のとおりである。

＜香川おもいやりネットワーク事業　宇多津担当者会　開催状況＞

R4.7.8	あみのうら交流センター	・講義「香川おもいやりネットワーク事業　取組実績と今後の課題について」 ・R3 年度に実施した活動報告とR4 年度の活動計画について	社会福祉法人　4名 民生・児童委員　1名 保健福祉課　1名 相談支援センター　1名 包括支援センター　1名 社会福祉協議会　4名
R4.11.24	あみのうら交流センター	・宇多津町における香川おもいやりネット基金の活用について ・地域課題解決に向けての取組について	社会福祉法人　4名 民生・児童委員　2名 保健福祉課　1名 包括支援センター　1名 社会福祉協議会　2名
R5.3.16	あみのうら交流センター	・地域課題解決に向けての取り組みについて ・R4年度に実施した活動報告とR5 年度の活動計画について	社会福祉法人　4名 民生・児童委員　1名 協議体　1名 包括支援センター　1名 社会福祉協議会　2名

地域協力活動	R4.9.15	町内コンビニ訪問
	R4.7.8	おもいやりネットワーク会議
	R4.11.24	おもいやりネットワーク会議
	R5.1.20	町内企業訪問
	R5.1.27	町内企業訪問
	R5.3.16	おもいやりネットワーク会議

（５） ボランティア活動の推進

① ボランティア連絡協議会への参加及び協力

事務局として、毎月の定例会、総会及び研修会等に積極的に参加し、ボランティア活動を推進した。各ボランティア団体とは密に連携し、顔の見える関係づくりを心がけている。加入団体は２３団体となっている。

② 福祉・ボランティア体験の推進

「うたづっこふくしセミナー」「福祉体験学習」は、新型コロナウイルス感染防止対策のもと関係団体の協力を得て開催することができた。

夏休み中学生ボランティア体験学習及びボランティア銀行の運営を次のとおり実施した。

a 夏休み中学生ボランティア体験学習

例年多くの学生がボランティアに参加し、受け入れ先も充実している。近年はコロナ対策で活動自体に制限がかかり、受け入れ先が限定されていたが、令和４年度は、駅前清掃をはじめ次の事業が実施され、多くの参加が得られている。今後も学校と連携を取りながらボランティア活動を推進していく。

	開催日	場　所　等	学　習　内　容	参加人数
1	R4.8.21	JR 駅前清掃	駅前清掃ボランティア体験	41 名
2	R4.7.23	町保健センター	第 18 回うたづっこふくしセミナー	20 名
3	R4.7.27	町内	高齢者にお弁当配達のお手伝い	2 名
4	R4.7.26 R4.8.2 R4.8.16 R4.8.23 R4.8.30	NPO 法人メロディー	障害児との交流	6 名
5	R4.7.25 R4.7.26 R4.7.28	はぐはぐランドうたづ	乳幼児との交流	40 名
6	R4.8.3	あみのうら交流センター	みんなのサロン「ともとも」 高齢者・乳幼児との交流	6 名
7	R4.7.26	夏休み宿題お助け隊	絵画教室の手伝い	6 名
8	R4.7.27	夏休み宿題お助け隊	習字教室の手伝い	6 名
9	R4.8.16	陽だまりデイサービス	高齢者との交流	3 名
10	R4.8.17 R4.8.18 R4.8.19	南部すくすくスクエア	子どもとの交流	9 名

b　勇心酒造㈱ボランティア銀行の運営

ボランティア銀行事業の取組みは、全国的に注目されている。宇多津町内小・中学校応援プロジェクトと連携し、住民総ぐるみで子どもたちの成長を応援し、子どもたちはボランティア活動をとおして思いやりの気持ちを育くんでいる。

（ａ）ハート数の推移

令和４年度のボランティア銀行の預金額は、809,168 ハートとなり、これまでの推移は以下のとおりである。

年　度	ハート数
令和　２　年度	７００，４８７💛
令和　３　年度	７５８，９４２💛
令和　４　年度	８０９，１６８💛

また、各学校のハート数は以下のとおりである。

学　校　名	令和４年度(ハート)	令和３年度(ハート)
宇多津小学校	３１９，０９１💛	２７３，２７２💛
宇多津北小学校	３８３，６９０💛	４６２，４７０💛
宇多津中学校	１０６，３８７💛	２３，２００💛
合　　計	８０９，１６８💛	７５８，９４２💛

（ｂ）ボランティアハートの贈呈先一覧

学校名	贈呈先	贈呈品
宇多津小学校	みんなで咲かそう花の会	花植え事業活動資金
	レスパスラボ	子ども食堂運営資金
	社会福祉協議会	災害 VC シュミレーションゲーム
宇多津北小学校	ボランティア推進委員会	駅前清掃活動資金
	老人クラブ連合会	みんなのハロウィン活動資金
	社会福祉協議会	車椅子・歩行器・集音器等購入
宇多津中学校	民生員児童委員協議会	オレンジリボンキャンペーン事業
	社会福祉協議会	生活困窮者自立支援用食料等

③　防災研修会の開催

災害ボランティアセンターを速やかに立ち上げ、運営できることを目的として、令和４年９月１７日と３月１２日に宇多津町保健センターにて実施した。災害時の運営におけるカードを用いたシミュレーションゲーム方式で参加者はそれぞれ４０人、４２人であった。

（６）　福祉関係団体等活動協力と連携

①　民生委員・児童委員協議会との連携

社会福祉協議会の運営において、民生委員・児童委員との連携・協働は重要不可欠であり、相談事業をはじめとして、香川おもいやりネットワーク事業、高齢者・一人暮らし老人の情報の共有、老人配食サービスの配食、高齢者見舞金配布事業、共同募金活動、生活福祉資金貸付業務等において協力を得て事業を実施している。

今後とも、相互の会合及び研修等に積極的に参加し、より緊密に連携を継続していくこととする。

②　老人クラブ連合会・身体障害者協会への参加協力

事務局として、総会・定例会、各種行事への協力及び文書管理を行った。

③　福祉団体への援助

ボランティア連絡協議会加盟の団体へ各種補助金等の提供を行った。

（７）　権利擁護の推進（法人後見事業）

認知症高齢者、知的障害者及び精神障害者など意思決定が困難な人の判断能力を補うため、社会福祉協議会が成年後見人等となり、その権利を擁護するための事業を平成２９年４月より開始している。

今年４年度の受任件数は３件の実績がある。

（８）　法人運営の強化

①　自主財源の確保

自主財源確保には香典返しや一般寄付金の使途の明確化を進めるため、社協会費とともに寄付金等の意義など機会を捉えて周知・広報に努めている。

香典返しについては、コロナ禍の影響により葬儀自体のあり方が変わってきていることから令和２年度を境に低い実績で推移している。

年度ごとの状況は次のとおりである。

＜寄付金の推移＞　（単位:件、円）

年　　度	香典返し		一般寄付		合計金額
	件　数	金　額	件　数	金　額	
令和　２　年度	0	0	9	438,000	438,000
令和　３　年度	4	110,000	5	143,985	253,985
令和　４　年度	2	200,000	8	336,500	536,500

令和４年度の社協会費は、３年ぶりに企業訪問を行い積極的な加入促進に努め、前年比約 52.8%増の実績となった。今後も会費の意義と使われ方を法人、団体、個人に明確に説明し共感していただくことに努め、会員の増加に努めていきたい。

＜会員数の推移＞

年　度	社協役員	団体会員	個人会員	法人会員	会　費
令和 2 年度	25 名	66 団体	17 名	2 法人	368,300 円
	190 口	1,332 口	73 口	95 口	
令和 3 年度	22 名	75 団体	18 名	2 法人	409,700 円
	188 口	1,698 口	58 口	95 口	
令和 4 年度	6 名	71 団体	19 名	75 法人	626,000 円
	56 口	2,044 口	33 口	1,415 口	

②　広報・啓発活動（情報誌「社協通信」の発行）

社協事業を広く町民に周知する目的で情報誌「社協通信」を毎月発行し、町広報と同時に配布した。

③　各種研修会等への参加

社協職員の資質向上を目指して県社協、県施設協会等の研修会に積極的に参加した。今後も香川県社会福祉協議会等が開催する研修その他業務遂行に有益と思われる研修についてはできる限り参加し、専門知識の取得を図っていく。

（９）　その他福祉活動への協力

①　共同募金運動への協力

宇多津町共同募金委員会に協力して、募金活動に参加した。令和４年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、街頭募金運動は再開できたが、歳末たすけあいチャリティー即売会の募金活動が実施できず、目標額 5,107,000 円に対し 4,427,889 円を集め、県共同募金会に送金した。

また、期間拡大による募金活動「宇多津町内小・中学校応援プロジェクト募金」を１月１日から３月３１日まで実施し、目標額 1,300,000 円に対し 1,744,868 円を集め、県共同募金会に送金した。

本町への助成金は地域福祉推進事業として、社会福祉協議会事業に 369,654 円、各種団体事業に 1,555,000 円の計 1,924,654 円、小・中学校応援プロジェクト事業として 1,692,844 円を助成することにより以下の事業を実施した。災害見舞金の実施はなかった。

＜社会福祉協議会事業への助成＞

番号	事 業 名	事　業　内　容	助 成 額
1	ふれあいいきいきサロン事業	ふれあいいきいきサロン活動助成費用（１団体 年間１．２万円～２万円）	100,000 円
2	ボランティア活動推進助成事業	ボランティア連絡協議会活動費用 開催費用	39,654 円
3	一人暮らし高齢者見舞金配布事業	８０歳以上の１人暮らし高齢者のお見舞金費用	200,000 円
4	心配ごと相談事業	弁護士相談費用	30,000 円
令和４年度社会福祉協議会事業助成額合計			369,654 円

＜各種団体への助成＞

番号	事 業 名 ／ 助 成 先	事　業　内　容	助成額
1	子育て支援推進事業 （ボランティア「モコモコ」）	核家族化が進む新都市を中心に、地域の人が交流できるイベントを開催し、交流の場を提供する。	170,000 円
2	身障者外出支援事業 （身体障害者協会）	身体障がい者の外出を支援することにより、社会参加を促し、会員同士の親睦を深める活動	30,000 円
3	外出支援事業 （老人クラブ連合会）	高齢者の外出を支援することにより社会参加を促し、ひきこもりを防止し、仲間づくりを行う。	30,000 円
4	子育て支援事業 （あおやま保育園）	クイックプリントステーションを購入し、データを園児と共有できる。抗ウイルステーブル購入により、感染防止につながる。	180,000 円
5	子育て支援事業 （青山幼稚園）	砂場の日除けを取り付けることで、砂場遊びの際、園児の暑さを緩和させることができる。	160,000 円
6	環境衛生推進事業 （宇多津町婦人会）	町民にゴキブリ団子を配布することにより、衛生管理に対する意識を高め、地域の衛生環境を整える。	140,000 円
7	障害者ふれあいサポート事業 （カノンの会）	就労支援している事業所の見学研修を行い、これからの暮らしについて考え、活動の輪を広げる。	70,000 円
8	障がい児支援事業 （NPO 法人メロディー）	講演会を開催することによって、これまで知らなかった知識を得ることができ、「共感」が生まれる。	150,000 円

9	子育て支援事業 （香川短期大学附属幼稚園）	災害備蓄用収納を購入することで、いつ災害が発生しても十分な量の水や食料の保管ができる。園児だけでなく地域の人も使うことができる。	60,000 円
10	手話ボランティア養成事業 （手話サークルにこにこ）	月に２回手話サークルを開催する。将来は、講演会等で手話通訳ができることを目指す。	30,000 円
11	障害者支援事業 （ドリームパラダイス）	作業場の証明の明るさ不足があり、LED に交換することでスムーズな作業環境を提供できる。	100,000 円
12	傾聴ボランティア養成事業 (傾聴ボランティア「コミコミ」)	傾聴ボランティア養成講座を開催し、傾聴の理念、技法を学ぶ。	30,000 円
13	子育て支援事業 （わかくさ保育園）	幼児用三輪車を購入し、園庭での遊びを通じて協調性と運動能力の向上を図ることができる。	180,000 円
14	子育て支援事業 （わかくさ北こども園）	テントの購入により、特に夏季での屋外活動の熱中症の予防、また災害時の避難場所として活用できる。	135,000 円
15	国際文化交流事業 （せとうち国際文化の会）	子どもたちを含めたボランティアガイドを養成することで、外国人への理解にもつながり、身近に国際交流ができる。	90,000 円
令和４年度一般募金助成合計額			1,555,000 円

＜小・中学校応援プジェクト募金助成金＞

番号	事 業 名 ／ 助 成 先	事 業 内 容	助 成 額
1	横断旗購入/宇多津小学校	保護者が行っている交通当番時の横断旗を新入生世帯の各家庭に配布し、保護者が当番を行いやすくする。	16,150 円
2	一輪車購入事業 /宇多津小学校	現在使用している一輪車は古くなり、台数も少ない。新しく整備し進んで使える環境を整えることで子どもたちのバランス感覚を養うことができる。	247,940 円

3	宇多津町あいさつひろげ隊作戦/宇多津小学校	保護者や地域の方が身につけるバッチやシールを作成し身につけてもらうことで児童が安心してあいさつや交流を図ることができる。	90,750 円
4	交通安全啓発用ベスト購入/宇多津北小学校	下校時や朝の交通立哨の際に教職員やボランティアが着用する。教職員と地域の方と共に校区内での児童の安全な生活を見守っていることを意識づけることができる。	52,100 円
5	自転車用交通安全シートの配布事業/宇多津北小学校	交通量が多い地区であるため、安全な乗り方や自転車の整備について呼びかけ、交通安全に対する意識向上に役立てる。	64,350 円
6	陸上クラブユニフォーム購入/宇多津北小学校	ユニフォームをきっかけとし、陸上部に入り、練習に取り組もうとする児童を増やすことができる。	101,915 円
7	宇北っ子がんばりカードの配布事業/宇多津北小学校	日常的にゴミ拾いやあいさつ運動、読書活動など目標に対して取り組んだ成果を記録するために使用し、意欲的に取り組むことができる。	11,440 円
8	見回り用自転車購入/宇多津北小学校	児童の安全を確認するための見守り時に使用する自転車を購入することで、迅速かつ安全に見守り活動をすることができる。	30,910 円
9	あいさつ運動ののぼり作成/宇多津北小学校	あいさつを促すのぼりを朝のあいさつ運動時に使用することで自然と挨拶ができるようになる。	19,140 円
10	生徒会による動画作成事業/宇多津中学校	生徒が活動を活性化するための動画を作成し広報することで、他者か存在を認められる機会を増やし、夢と希望を持ち成長することができる。	300,000 円
11	ボランティア銀行事業（社会福祉協議会）	小・中学生が地域のボランティア活動に参加することによって、地域とのつながりが強くなり、ボランティア運動を通じて思いやりの気持ちを育む。	758,149 円
令和４年度プロジェクト募金助成合計額			1,692,844 円